

二度と過ちを犯すこと勿れ!

大田昌秀さんが語る 鉄血勤皇隊の真実



【おおた・まさひで】

- 1925年6月12日、沖縄県久米島に生まれる
- 3月、鉄血勤皇隊の情報宣伝の千早隊に動員される
- 54年 早稲田大学教育学部英文学科卒業
- 56年 アメリカシラキューズ大学大学院修了後 琉球大学財団に勤務
- 68年 琉球大学社会学科教授になる
- 83年～85年琉球大学法文学部長、評議員を併任
- 90年 琉球大学辞職後、沖縄県知事を2期務める

現在は沖縄県那覇市大田平和総合研究所主宰

全ての権利を奪う戦争

大田昌秀さんは9月5日、塩尻市塩尻志学館高等学校で『沖縄戦を通して教育を考える』という演題で、鉄血勤皇隊として実際に体験した沖縄戦や現在沖縄の抱える問題を語った。

その後、3年C組は大田さんの独占インタビューを行うことができた。「全く勝ち目のない戦争

軍隊は何を守るのか?

大田昌秀さんは、沖縄師範学校本科2年の時、鉄血勤皇隊の情報伝達として動員された。戦渦の中あちこちの壕をとり回りながら戦況を知らせる仕事をさせられた。

「軍隊というのは自国民

目の前で殺される友

「もし捕虜になったらどうなってしまうのか、いつも考えていました。捕虜になったら、殺されるのかも知れないと。アメリカ軍から狙い撃ちされたこともありました。でもアメリカ軍の飛行機や戦車に対して、鉄血勤皇隊の少年たちは手の出しようがありませんでした」

学徒隊は本ならば14歳以上の人が動員される決まりになっていたが、法律を守っていたら戦争はできないので、6歳や7歳の子どもまでが戦場に駆り出された。軍からの命令は絶対で、逆らうと殴られたり蹴られたり竹刀で叩かれたりした。

「僕らも皆さんと同じ学生だった。当然、異性には興味を持ってはいいけないと厳しく教えられました。女性がいる食堂にも入ってはなりませんでした」

仲のよかった友人も、大田さんの目の前で殺されていった。

「体に爆弾をつけて戦車に突っ込めと言われた友人もいました。軍隊に入るといふ通知もありません、強制的に軍隊に引っぱられてきた仲間もいました」

終戦になる頃、鉄血勤皇隊は解散命令を出されたが、解散せずに最後まで戦わされたのが現状であった。



捕虜になった少年兵。ひめゆり部隊とともに有名な鉄血勤皇隊隊員で、左が18歳、右が20歳と米軍の説明にはあるが、実際には13～18歳が多かった。師範学校を含めて15校2212人の男女生徒が各隊に配属され、1200余人が戦没した=1945年6月17日

- 写真提供 沖縄タイムス -

言だけを使って暮らしている人が多かった。だが、沖縄の方言は沖縄の人しか分らない。当然、本土から来た日本軍兵士に、沖縄の方言が分かるわけがない。アメリカ軍のスパイと勘違いされ、方言を使っている一般人の人々も殺された。

「平和なときの苦労は戦争のときの苦労とは比べられないですね」

今の若者たちの苦労

将来を背負うのは、君たちだ

戦争で生き残っても精神病などの病気にかかってしまい、苦しい生活を送らなければならぬ人達もいたという。

瀕死の重傷を負って意識の無いまま漂流し、奇跡的に助かった大田さん。九死に一生を得たが多くの友人を失った。生き残った者の使命は何か自分に問い続け、沖縄戦で失った時間を取り戻すように心がむしやりに学び、悲劇を繰り返さないために自分ができることを模索した。沖縄県知事を引退後も全国を飛び回り、自分の思いを語り続ける。

「平和なときの苦労は戦争のときの苦労とは比べられないですね」

今の若者たちの苦労

は、沖縄戦で犠牲になった少年たちと比べものにならないのではないかと僕たちに問いかける。「生きている自分達は、何をしなければならぬのかよく考えないといいけません。若い人たちは、まず、二度と戦争を起さぬように、『戦争というものはどういふものだったのか』知ってほしい。そして自分達が将来を背負っていると自覚を持ってほしいです」

日本国憲法が公布され、現在の中学生にとつては、無関係にもみえる戦争。しかし、本当に無関係なのだろうか。

65年前の少年たちが体験した悲劇を決して繰り返してはならないと、大田さんは静かに熱く語った。

鉄血勤皇隊動員数・戦死者数

学校名	動員者数	戦死者数	学校名	動員者数	戦死者数
沖縄師範学校男子部	386	226	沖縄県立工業学校	97	88
沖縄県立第一中学校	368	203	那覇市立商業学校	117	114
沖縄県立第二中学校	143	119	私立開南中学校	71	67
沖縄県立第三中学校	363	42	沖縄県立宮古中学校	不明	不明
沖縄県立水産学校	49	22	沖縄県立八重山農林学校	20	3
沖縄県立農林学校	173	37			
			合計	1787名以上	921名以上

- 参考資料 大田平和総合研究所「沖縄関連資料」より -